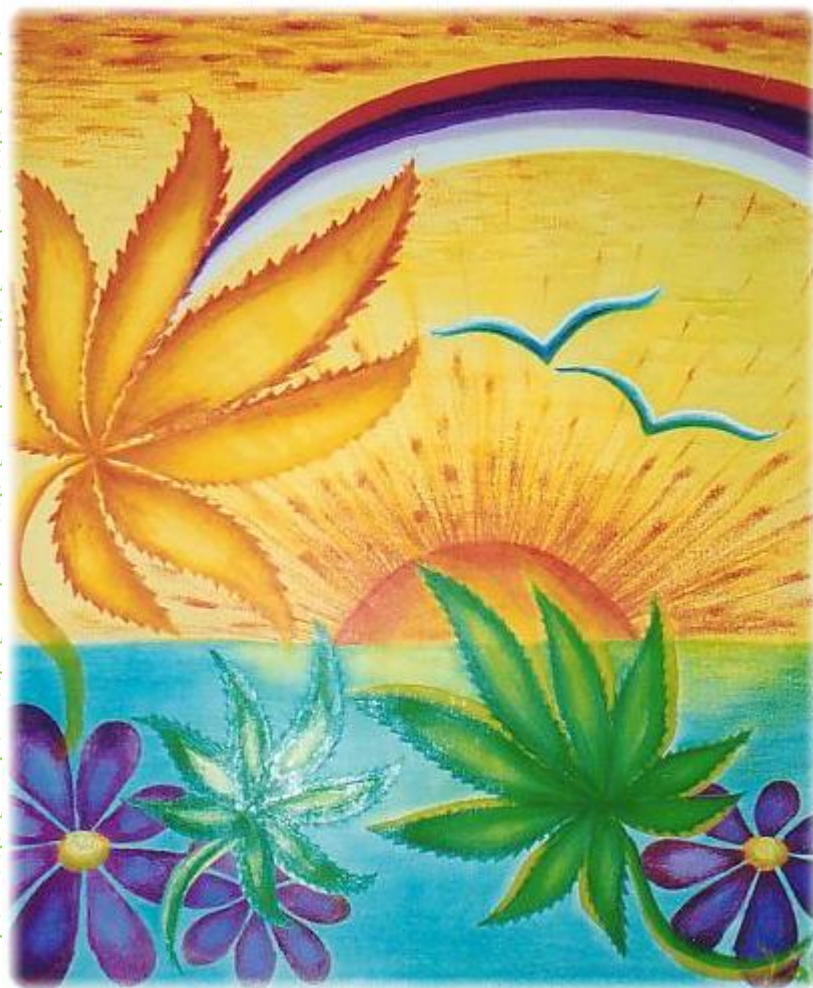


OPEN HEMP GATHERING TOKYO

入場無料

オープン・ヘンプ・ギャザリング東京

脱亜入欧(明治維新)から脱欧入亜(地球維新)の時代へ



出展者
募集中

アースデイ東京やアースガーデンでお馴染みのヘンプ出店者による東京ビックサイト近隣のTFTホールでの大麻草の今がわかるイベント。高知で毎年、開催されてきたオープンヘンプギャザリングのムーブメントが東京にやってきた！

日時 **11月1日(土)～2日(日)** 11:00～20:30

場所：新交通ゆりかもめ国際展示場下車 **TFTホール及びホワイエ (展示会場)**

主催：(株)ぞうのたまご 同時開催企画：<http://www.grow-shop.jp/> (TFTホール500内の展示場)
ホワイエ・セミナー企画：NPO法人ヘンプ製品普及協会
連絡先：akahoshi@hemp-revo.net (担当：赤星)

脱亜入欧(明治維新)から 脱欧入亜(地球維新)の時代へ

明治維新の時代に現在の1万円札になっている福沢諭吉が唱えた「脱亜入欧」。

20世紀は、アジアを脱して、欧米へ追い付け、追い越せと猛進してきた日本であった。しかし、欧米から生まれた経済体制、思考体系、生活や文化では、地球環境、地域環境、生活環境、体内環境、精神環境のすべてが崩壊する危機に瀕している。

21世紀は、すでにアジアの時代へと突入しているが、欧米のグローバリゼーションの波に呑まれるままでよいのだろうか？ 今回のオープンヘンプギャザリング東京では、世界の成長センターであるアジアで大麻産業の大変革がはじまろうとしていることにスポットを当ててみた。アジア圏内の経済や社会や価値観の違いを認め合い、すべての崩壊の危機を乗り越えるための、オルターナティブ&地球維新なテーマに「大麻草」がある。アジア(亜細亜)の亜は、麻の「あ」だ！。そんなシャレも発信しながら、皆でアジアの中の「大麻草」について考えるきっかけにしたい。

●シンポジウム 日中韓の大麻産業事情～第2回アジア大麻産業国際会議に向けて～

11月1日(土) 13:00～15:00

中国の麻 北村隆匡 ヤングートレーディング(株)(漢麻産業投資控有限公司 日本窓口)

韓国の麻 郭大植 NPO 法人アジア環境保全センター代表

日本の麻 赤星栄志 NPO 法人ヘンプ製品普及協会理事

今年11月20日から24日にかけて、韓国・東海市で、第2回アジア大麻産業国際会議が開催されます。世界に向けて、新しいエコ産業の創造のために3カ国の協力体制が不可欠です。最近では、中国は30億の投資、韓国は3千万円の調査、そして日本は大麻特区へ。日中韓の麻に関する最新情報満載！

●セミナー 大麻力対談

11月2日(日) 13:00～15:00

赤星栄志 NPO 法人ヘンプ製品普及協会理事

中山康直 縄文エネルギー研究所 所長

日本で封印されてしまった植物がなぜ注目されているのかを わかりやすく、ディープに語る企画です。

●ヘンプ製品出展者(予定) 衣料、食品、化粧品、建材、インテリア、伝統工芸など多彩なお店が集結！

リネーチャー、ビッグフィールド、トムクラフト、エルデ、健康畳植田、菊屋、ブルーアップル、ヒマラヤンマテリアル、ヤングートレーディング、ミラクルミカ&サロンドヘンプ宮古島&麻姑山HEMP会、日本ヘンプ、根麻ねお、縄文エネルギー研究所、ハレハレ本舗、ステイゴールドカンパニー、信州麻プロジェクト協議会、忠兵衛、カフェスロー大阪、他

●ヘンプ(麻)とは？



ヘンプ(Hemp)とは日本語で大麻草(タイマソウ)という植物のことをいいます。アサ科の1年草であり、学名は”Cannabis Sativa L”。成長すると約110日間で高さ3～4mに達し、茎の直径は2～3cmとなります。原産地は中央アジアと考えられ、現在では世界各地に分布しています。病気や虫に強いので、農薬や化学肥料をほぼ必要とせずに栽培でき、土壌や水の汚染の心配もありません。

この植物の利用価値は、とても高く、衣類、建材、食品、化粧品、紙、燃料、薬品、プラスチック等の生活に必要な製品のほとんどをつくることができます。石油と森林に替わる可能性を秘めた農作物として、また、様々な生活習慣病を改善する新しい健康食品として世界中で注目されています。日本では、大麻取締法により花穂と葉の利用は禁止され、茎と種子の利用は可能ですが、都道府県知事による許可がないと栽培できません。

詳しくはヘンプ55のサイト参照。

<http://www.hemp-revo.net/index.html>

●TFTホール会場

